

## 新年のご挨拶

太田市医師会  
会長 小島 章

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、健やかに、心を豊かに、新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年は大衆議院総選挙がいつ、どの時点で行われるか、政権を担うのは自民党か民主党か、はたまた再編があり新しい枠組みができるのか、そして医療政策はどうなるのか、社会保障費の財源はどうなるのか、国民が安心して暮らすためのセーフティネットはどうなるのか。医師不足、特に専門性の高い勤務医不足や医療費削減等により、地域医療の崩壊、国民皆保険制度の破綻が現実化しつつある局面で、何が起るのか。サブプライムローン問題より始まった金融危機が、世界の経済危機へ発展し、財政危機につながり、医療費や介護費の財源も見つけづらく、平成20年4月の診療報酬改定や後期高齢者医療制度も、はじめから加入者の理解が得られず、信頼がなければ、当然のこととして医療を受ける機会が減り、予想以上の受診抑制がきいて、疾病の発見や治療の遅れが心配されております。平成20年度群馬県医師会定時総会の際に鶴谷会長がご挨拶されたように、麻生総理の提唱した2兆円の定額交付金を、医療保険や救急医療、産科医療の現場等に回していただく初夢も叶いそうにもないのが現実です。

さて、昨年は3月8日、北関東自動車道の伊勢崎ー太田・桐生間が開通し、県都と東毛地域が初めて高速道路網で直結し、県医師会がより身近になった感があります。5月20日には、当医師会の担当にて県医師会移動会長会議を、及ばずながらマリエール太田にて開催させていただきました。

また当地域では、平成20年度は5月より特定健診が開始され、施設での個別健診を中心として一部に集団健診も混在しております。国保加入者の健診結果は従来通り紙媒体で太田市へ提出し、できるだけ多くの会員に参加していただき、健診率を落とさぬように関係各位に協力をお願いしております。特定保健指導についてはすべて太田市が行うことになっております。どのような指導効果が出るかが心配され、また期待されております。

4月より麻しん風しん混合ワクチン(MR)の3期、4期の接種が始まりました。当地区では平成18年春に麻疹の流行があり、3期のMRワクチン接種に関しては、太田市学校保健会の校医の先生方の協力を得て、希望者に中学校で集団接種し、何としても摂取率を上げて麻しん風しんの発生をできるだけ少なくするように努めております。

さらに、群医総研により提言をまとめていただいたがん検診においては、太田市では胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、前立腺がんの検診を行っております。胃がん検診は、施設個別検診における胃内視鏡検査数が順調に伸びて、一万人を越える住民が検査を受けており、平成20年よりH.ピロリとペプシノーゲンの両方の検査結果を添えて読影しております。一方、太田市検診センターの検診車による集団検診は、車の老朽化や内視鏡の普及等の事情により昨年限りで中止となり、今年より群馬県健康づくり財団へ委託することになっております。

平成18年4月より開設された平日夜間急病診療所も、近隣の医師会に遅ればせながら、これまでの月曜日から金曜日の診療に加えて、昨年4月より土曜日も午後7時より午後10時まで、小児科・内科の一次救急の診療を35名の会員の協力を得て開始しております。救急病院の当直勤務医の負担を減らして、少しでも住民の急病や、住民の健康の保持増進に役立てればと存じております。

また、地方交付金の不交付団体同士である太田市と大泉町が、更なる発展を遂げ、暮らしやすい元気のある街を造るために、太田市と大泉町の合併の機運が盛り上がり、太田市長清水氏と大泉町長長谷川氏のあいだで合併確認式が行われ、それに引き続き任意合併協議会がこれまでに7回開催され、合併に向けて進んでおります。今年4月の太田市長選挙、大泉町長選挙後、平成21年度中に合併が具体化する暁には、太田市医師会もその対応を真剣に協議検討いたしたく存じております。

今年もレセプトオンライン化の問題や、新公益法人に向けての対応等の時代の変化の流れに応じ、今まで以上に医師会の事業が増加し、複雑となり、会員の皆様が果たす役割がますます重要になり、多忙は日々が続くことが予想されます。本年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。最後になりますが、群馬県医師会、太田市医師会、関係各位の御活躍、御健勝、御多幸を心より祈念申し上げ年頭の挨拶とさせていただきます。